



みなさんは、日々の暮らしの中にご近所付き合いや気の合う仲間がいますか？
5年後、10年後に向けて「住みやすい、住んでいてよかった。」と思える、人と人との「つながりのある地域」をめざし、「地域のお宝」として、ご紹介していきます。

取材先

◇ 蕪川地区 石原町1区2区共催

例幣使仮装行列



令和3年3月12日（金）に石原町の旧例幣使道で、石原町1区2区の住民他48人と地元の蕪川小学校5年生97人、総勢145人の皆さんによる「例幣使仮装行列」が行われました。沿道には行列を応援する保護者やご近所の方が三密に気を配りながら集まりました。昨年の行列はコロナ禍で中止となりましたが、今年で第5回目。この日のために新たに狩衣の白装束を50着、お飾りや手荷物の修理など、コロナ禍で集まらない中、それぞれ自宅で作業を進めました。一方、児童は先生の指導のもと、自分で被る烏帽子や菅傘を作製し、衣装の着方やたたみ方を習いました。そして、終了後の衣装の洗濯は保護者が担当します。地域と学校と保護者が一緒になって、時間をかけて仕上がった例幣使仮装行列です。

※日光例幣使街道は、江戸時代の脇街道の一つで、徳川家康の没後、東照宮に幣帛（帛は布の意味。当時は貴重品で捧物）を奉献するための勅使（日光例幣使）が通った道です。



「郷土の歴史を識ることにより

郷土愛は生まれるものと信じます。」

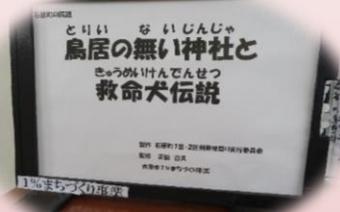
（石原町1区ホームページより）

地域のお宝発見～太田市生活支援体制整備事業～

烏帽子の作製の様子



例幣使行列の安全祈願をした賀茂神社で、共侍が一行を助けようとした犬を誤って切り捨てた、という救命犬伝説があります。石原町1区の住民で作製した紙芝居を先生が児童に読み聞かせました。



Q 例幣使行列の紙芝居を見たり、烏帽子を作ったりしていますが、どんなふうに思いますか？

5年3組 中里領太くん

「なんとなく救命犬や神社のことは知っていたけど、紙芝居で教えてもらってよく分かった。」

5年3組 山科遥実さん

「衣装が紙だと思っていたら、布だったのでびっくりした。歴史を細かく知れてよかった。」(昨年までは不織布)

校長先生と教頭先生



島崎純美代 校長

「コロナ禍で学校行事が少ない中、地元の行事に子どもと教員が時間をかけて準備し参加できました。地域の伝統継承は、子どもたちが大きくなった時に心の拠り所となるでしょう。学校だけではできない学びの場にもなりました。」

石原町1区の皆さん



「郷土の歴史を識ることにより、

郷土愛は生まれるものと信じます。」

これは、石原町1区のホームページのことばです。地域が総出で伝統文化を継承することは、地元を誇りに思ったり、大切に作る心が芽生えます。またそこに住まう人たちが同じ気持ちで、しっかりとつながりを育んでいます。

こうしたつながりが、地域の安心安全をつくり、子どもから大人まで地元での豊かな暮らしを続ける秘訣となっています。これぞ「地域のお宝」です。



詳しくはこちら

お問合せ

太田市社会福祉協議会 地域福祉係

〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549

電話 0276-30-0033 FAX 0276-30-0032